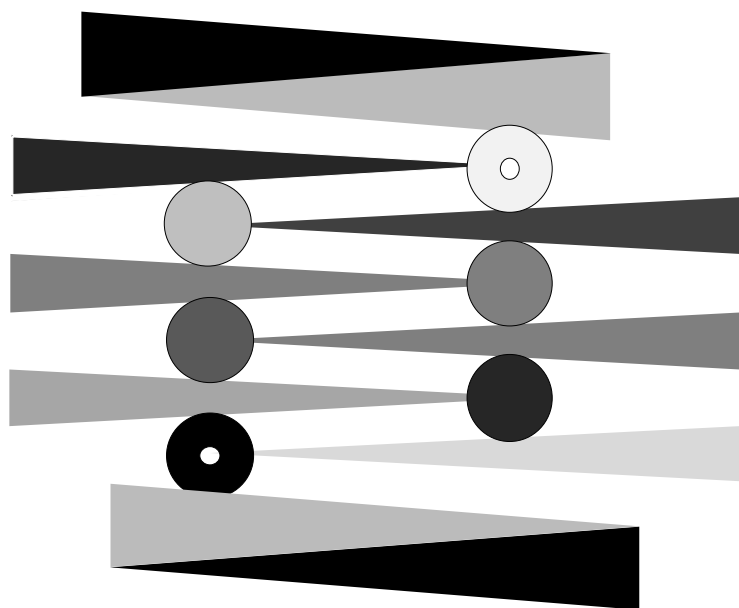


# コミュニケーション能力を育てる 授業づくりの秘訣

—話すこと・聞くことの具体的指導法とアイデア—

村松賢一 編著



---

教育報道出版社

## まえがき

ご存知のように、平成10（1998）年～11（1999）年に改訂された学習指導要領（国語科）で、従来からの〈表現・理解〉力に加えて、「伝え合う力」という新たな目標が掲げられました。改訂に至る議論を考えると、「**伝え合う力**」とは**コミュニケーション能力である**と理解して間違いません。これは、「ことばの力」を個に閉じた視点でとらえがちだった国語教育史の中で画期的なことでした。言うまでもなくコミュニケーション能力とは「送信・受信」の往復によって共通理解を図ろうとする他者に開かれた力です。以来、全国的に「伝え合う力」の育成をめざす実践が取り組まれ、筆者も数えきれないほどの教室を訪れ、授業づくりに関わって来ました。そして今回の学習指導要領の改訂。「交流」（伝え合う活動）が、「読むこと」や「書くこと」の学習過程にもはっきり位置づけられました。また、教科を問わず「言語活動の充実」が求められています。言ってみれば、「伝え合う力」はバージョンアップされて引き継がれることになったのです。

この20年近く、「国語科教育は“読み書き”中心から転換を」と主張してきた筆者にとってこれはもちろん喜ばしいことです。同時に、大きな懸念をも感じざるを得ないのです。それは一口で言うと、その指導がうまくいっているとは思えないからです。確かに、いろいろな授業場面においてグループで話し合う活動などが取り入れられるようになりました。ところが内実は、ほとんどが、考えを発表し合うだけの“出し合い”で終わっています。話線（話し手から聞き手へのことばの届き方）が交流しない。従って、深め合いや高め合いにつながらないのです。その主な原因は、指導者の注意が「話すこと」と「聞くこと」だけに向けられ、相手の話を受けて返す「応じること」への注力がおろそかになっているからです。はっきり話せ、しっかり聞け、といくら言っても話線が交わるようにはなりません。識者もようやくそのことに気づいたのか、学習指導要領の改訂論議の中で「『伝え合う』の『合う』の方がまだ育ちきっていないため、反応の仕方、質問の仕方、受けて返す言葉の指導など、具

体的なことが必要」といった意見が出されたと聞きます。この点に本気で取り組まない限り、「伝え合い」は「時間の無駄」の同義語と化し、早晚、「言語活動とともに去りぬ」といった事態になりかねません。本書は、そうならないためのいくつかの「秘訣」を、すぐれた実践報告で裏づけながら明らかにしようというものです。以下に、具体的な特色を3点あげさせていただきます。

①学習指導要領に準拠しつつも、コミュニケーションの類型論を踏まえ、各学年で重点的に育成すべき対話能力を絞り込みました。その上で、活動展開のアイデアや指導上の留意点をできるだけ分かりやすく記述することを心がけました。

②本書に収めた実践事例はすべて筆者がその授業づくりに関わったものばかりです。どれもが「いかにして子どもたちの話線を交流させるか」という問題意識に貫かれています。事例の選択にあたっては、活動形態（スピーチ、話し合い、討論、ポスター・セッション等）の多様性と対話の文字化記録を必ず示すことに配慮しました。また、各実践については、読者をご自分の教室で応用する際の参考になるよう「講評」を付し、長所だけでなく課題に触れることも忘れないようにしました。

③「よい事例から学ぼう」と言われても、実際は教科書教材に頼らざるを得ないのが多くの現場の実情です。そこで、「今使っているこの教科書でコミュニケーション能力をどうつけるか」という観点で1項目を立て、留意すべきポイントを具体的にまとめました。

最後に、教育報道出版社の梶浦真社長に格別の謝意を表したいと思います。氏には、企画の段階から有益なアドバイスをいくつももらいました。特に、随所に挿入された図表や小見出しの文言などは氏の創案によるもので、その労に深く感謝するものです。

平成24年師走 選挙カーの声を聞きながら

村松賢一

# ★目 次★

## 第一章 ≪総論・解説≫・・・9

### I コミュニケーション能力の育成は

「教育における喫緊の課題」だ・・・10

1. “学力”としてのコミュニケーション能力 10
2. 自己認識の契機としてのコミュニケーション 11

### II コミュニケーションとは何か・・・12

1. 類 型 —押さえておきたい5つの類型— 13
2. 定 義 —2層構造で捉える— 13
3. 形 態 —双方向性が要— 14
4. コミュニケーション能力とは 15
  - (1) 情意的要素 15
  - (2) 認知的要素 15
  - (3) 技能的要素 16
    - ①聴く力 16
    - ②応じる力 16
    - ③話す力 16
    - ④はこぶ力 17

### III コミュニケーション能力を育てる授業づくりの鍵 ・・・17

1. 現状 —問題点と課題— 17
2. 問題を打開する手立て 18
  - (1) 話線の交流を必然化する「学習課題」の工夫 18
    - ①価値ある課題の協同的探求 18
    - ②「話したい、聞きたい」話題 19
    - ③インフォメーション・ギャップ 19
    - ④意見の分化・対立をもたらす発問 19

- ⑤二次的学習課題の設定 20
- (2) 話線が交流しやすい「活動形態」の工夫 20
- (3) メタ対話学習ー対話する力「を」意識的、継続的に学ぶー 20

#### IV 学年別授業づくりの現実的課題と対策・・・21

- 1. 学年をどう区切るかー発達に応じた内容構成を一 21
- 2. 各学年で何を重点的に指導するか 21
  - (1) 第Ⅰ段階：小学校1・2年〔入門期〕 22
  - (2) 第Ⅱ段階：小学校3・4年〔基礎基本形成期〕 22
  - (3) 第Ⅲ段階：小学校5年～中学校1年〔基礎基本確立期〕 22
  - (4) 第Ⅳ段階：中学校2・3年〔発展期〕 23

## 第二章 ≪授業づくりの基本と 実践事例から見た指導の秘訣≫・・・24

### Ⅰ 小学校1・2年（入門期）・・・25

- 1. 重点を置くべき目標・学習活動 25
  - “ことばを介して他者と関わる力を”
  - 《学習指導要領と教科書を読み解くと見えてくること》 25
- 2. 育てたい「態度・ことばの力」 27
- 3. 指導のポイントー聴く力を育てる指導の型と策一 29
- 4. 話線を交流させる工夫 31
- 5. 授業づくりの秘訣 34
  - 【秘訣①】文字化した対話例を学習材に「対話のポイント」を学ぶ 35
    - ・実践報告：「対話の時間の試み」（継続的な対話力指導・朝の時間）
    - ★紙上講評 49
  - 【秘訣②】話し手主導から聞き手主導へ転換する 51
    - ・実践報告：「この本読んで！」（おすすめの本を紹介・国語）
    - ★紙上講評 59

## Ⅱ 小学校3・4年（基礎基本形成期）・・・61

1. 重点をおくべき目標・学習活動 61  
“分かりやすく説明し、要点を聞き出す力”
2. 説明・発表 61
  - (1) 学習指導要領を読むー結局何が求められているのかー 61
  - (2) 教科書を見るー教材から見える、育てる力と指導ー 62
  - (3) 育てたい「ことばの力」 62
  - (4) 指導のポイント ー質問するカー 64
  - (5) 話線を交流させる工夫 ー対話に相互性を持たせる指導ー 66
3. グループでの話し合い ー小集団学習はこう活かすー 69
  - (1) 学習指導要領を読む ーねらいの中心は進行にありー 69
  - (2) 教科書を見る ー授業化に向けた課題とねらいー 69
  - (3) 指導のポイント ー子どもの自己評価能力を育てよー 70
4. スピーチ 72
  - (1) 教科書を見る ースピーチ教材の3つのタイプー 72
  - (2) 指導のポイント ー話しきらせないことも大事ー 74
5. 授業づくりの秘訣 75
  - 【秘訣③】ポスター・セッションはインフォメーション・ギャップを活用して 76
    - ・実践報告：「もりもり山脈回復大作戦」（校内樹林地の再生をめざす・総合的な学習の時間）
  - ★紙上講評 85
  - 【秘訣④】調べ学習の発表はジグソー方式で 87
    - ・実践報告：「安全マップづくり」（学区の安全な場所を調査・総合的な学習の時間）
  - ★紙上講評 94
  - 【秘訣⑤】話し合いの極意は「聞き合い」にあり 96
    - ・実践報告：「年間を通じた特設単元で『聴いて訊く』力を育てる」（段階を踏んで質問力を鍛える・国語）
  - ★紙上講評 104

【秘訣⑥】スピーチでは半分話し、後の半分は聞き手と共に作る 106

・事例紹介：「聞き手参加型スピーチ」

Ⅲ 小学校5年～中学校1年（基礎基本確立期）

・ ・ 1 1 2

1. 重点を置くべき目標・学習活動 112  
“他者と意見を戦わすことを通して、深化した認識を共有する力を”
  - ① 討論が育てる思考力 ーなぜ授業で討論かー 112
  - ② 学習指導要領を読む ー相互思考を重視せよー 112
  - ③ 教科書を見る ー適切な対人的議論能力を伸ばすー 113
2. 育てたい「ことばの力」 ー言語能力の質を高めるー 115
  - ① 聞く力ー考えの違いを活かすー 115
  - ② 応じる力 ー不毛の言い合いから本質的な討論へー 115
  - ③ 話す力 ー説得力から納得力へ 117
  - ④ はこぶ力 ー具体的指導モデルはあるかー 117
3. 指導のポイント ー討論する力ー 119
  - ① 討論の価値を理解させる 119
  - ② 教師が媒介するクラス討論から ーその場の介入と指導ー 119
  - ③ 討論の記録を二次教材として活用する 120
4. 教科書を使う場合の留意点 ー教科書を生かす視点ー 121
  - ① よい意見の条件 ーよい意見の“よい”とはー 121
  - ② 意見を戦わせるとは ー欠落している実践的な視点ー 122
  - ③ 「比べて考える」ことから ー意見は並べてから比べろー 122
  - ④ パネル・ディスカッション/ディベート  
の指導にあたって 123
5. 話線を交流させる工夫 124
  - ① 学習課題の工夫 ー意見が対立・分化する発問をー 124
  - ② 活動形態の工夫 ーディベカッションのすすめー 125

6. 授業づくりの秘訣 127
- 【秘訣⑦】 探究的な対話が起きる教材・課題を選ぶ 128  
・実践報告：「ばらした段落を復元する対話で思考力を鍛える」  
(低学年の説明文を活用・国語)
- ★紙上講評 135
- 【秘訣⑧】 討論の本質は「比べて考える」こと 138  
・実践報告：「ディベート・ディスカッションの試み」(新形式  
の討論に挑戦・国語)
- ★紙上講評 145
- 【秘訣⑨】 意見の分化・対立をもたらす学習課題を 147  
・事例紹介：「なぜ、お父さんはゆみ子の顔ではなく花を見つ  
めて出征したのか」(「一つの花」をめぐる読解授  
業・国語)
- 【秘訣⑩】 フリップや付箋の活用で意見を視覚化する 153  
・実践報告：「話し合って『総合』の探求課題を決める」(「話  
し合い」から「考え合い」へ・総合的な学習の時  
間)
- ★紙上講評 161

あとがき 166



# 第一章

## 《総論・解説》

★本章の内容★

- ・コミュニケーション能力とはどんな能力なのか
- ・その能力を育てる授業づくりのポイント
- ・学年ごとの重要指導事項は何か